

保護者 各位

大洲市長 二宮 隆久

令和8年度 日本脳炎(2期)予防接種について

日本脳炎(2期)予防接種の実施について、必要な書類を同封しています。

日本脳炎を予防するために、予防接種法の定めにより、**9歳以上 13 歳未満**のお子さんは日本脳炎(2期)予防接種を受けるように努めなければなりません。(定期予防接種)

裏面の説明を熟読のうえ、予防接種の副反応等についても十分ご理解いただけましたら、必要事項を記入し、指定の医療機関で接種を受けてください。

1. ワクチンについて

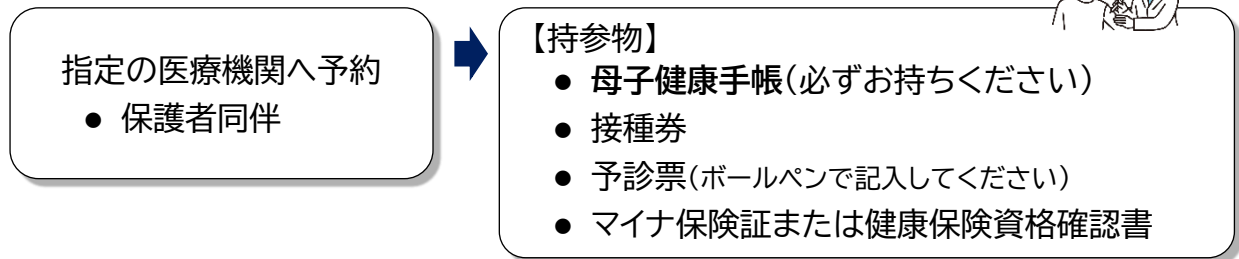
対象者	定期接種期限
平成 28年 4月 2日～平成 29年 4月 1日生まれの方	13 歳の誕生日前日まで

※ 定期接種期限を過ぎると**任意接種(全額自己負担)**となります。**早めに接種してください。**

※ 日本脳炎(1期/計3回)の接種がまだ完了していない方

1期については定期接種として扱える年齢を過ぎていますので接種できません(任意接種となります)。確実な免疫を獲得するためにも、接種をお勧めします。2期は定期接種になります。接種スケジュールについては、かかりつけ医にご相談ください。

2. 接種までの流れ



3. 予防接種実施医療機関(市内)

(令和8年3月時点)

医療機関名	電話番号	医療機関名	電話番号
井関クリニック(2期のみ)	25-6212	菊原医院	26-0103
おおくぼこどもクリニック	57-9366	ごとう小児科	23-0510
大久保内科クリニック	26-1131	河辺診療所	39-2010
大洲ななほしクリニック	25-7710		

➤ 市外の医療機関で予防接種を受けることも可能です。

その場合は、指定医療機関かどうか事前に各医療機関にお問い合わせください。

裏面へ

日本脳炎とは？



日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ヒトから直接ではなく、ブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。7～10日の潜伏期間の後、突然の高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。ヒトからヒトへの感染はありません。

流行は西日本地域が中心ですが、ウイルスは北海道などの一部を除く日本全体に分布しています。飼育されているブタにおける日本脳炎の流行は毎年6～10月まで続きますが、この間に地域によっては、約80%以上のブタが感染しています。

感染者100～1,000人に1人が脳炎等を発症すると考えられています。脳炎のほか髄膜炎や夏かせ様症状で終わる人もいます。脳炎にかかった時の死亡率は約20～40%程度と考えられており、神経の後遺症を残す人が多くいます。



今回の日本脳炎(2期)予防接種とは…

乳幼児期に日本脳炎(1期)予防接種をしており、今回は追加免疫をつけるために行います。免疫率は75～95%で、接種により患者発生は非常に減少しています。

接種前後の注意事項

予防接種は、免疫をつける反面ワクチンを接種しますので、軽い副反応や、まれに重い副反応がみられることがあります。

予防接種は、健康な体で調子のよいときに受けるように気をつけましょう。

副反応

接種部位が腫れることや全身反応がまれにあります。通常、数日以内に自然に治るので心配の必要はありません。

・注射部分が赤くなる、発熱、腫れ、硬結(しこり)、発疹等

まれに生じる重い副反応として、接種直後にアナフィラキシー様症状(ショック症状、じんましん、呼吸困難など)があります。他に接種局所のひどい腫れ、高熱、ひきつけなどの症状があったら、医師の診察を受けてください。症状が予防接種後副反応報告基準に該当する場合は、医師から大洲市へ副反応の報告が行われます。

ワクチンの種類によっては、極めてまれに脳炎や神経障害などの重い副反応が生じることもあります。

このような場合に、厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期の予防接種によるものと認定したときは、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。



問合せ先

健康増進課/TEL:23-0310 長浜保健センター/TEL:52-3055
肱川保健センター/TEL:34-2340(河辺地区含む)